学校番号	1101

令和２年度　書道科

教科	書道	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅱ　（光村図書出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰの学習をより深め、作品を創作する意欲を高めさせる
・作品を創作するための技術、創造力を養わせる
・作品を軸装に仕上げる技術を養わせる

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫している。	創造的に書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身につけ表している。	文字や書の伝統と文化について、幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	作品への取り組み方 提出作品 準備の心構え 後かたずけ 鑑賞活動	ワークシート 作品への取り組み方 制作途中の作品 提出作品	制作途中の作品 提出作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期		・篆書を学ぼう 「大　盂　鼎」だいうてい 「石　鼓　文」 ・隷書を学ぼう 「乙　瑛　碑」	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○		a:古典の表現技法に関心をもち、その美しさを味わおうとしている b:古典の特徴を理解し、字形や書風を捉え、表現を工夫している c:古典の用筆、運筆の技法を習得し表現に生かしている	・学習活動の様子 ・創作の様子 ・作品
		「居延漢簡」 「隷書崔子玉座右銘」 ・草書を学ぼう 「十七帖」 「真草千字文」	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		a:古典の表現技法に関心をもち、その美しさを味わおうとしている b:古典の特徴を理解し、字形や書風を捉え、表現を工夫している c:古典の用筆、運筆の技法を習得し表現に生かしている	同上
		「草書諸上座帖巻」 ・行書を学ぼう 「集王聖教序」 「松風閣詩巻」	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		a: b:　　同上 c: d:	同上
後期		・楷書を学ぼう 「始平公造像記」 「美人董氏墓誌銘」	○	○	○		a: b:　　同上 c: d:	同上
	篆刻	・篆刻を楽しむ ・作品づくり	○	○	○	○	a:篆刻について興味・関心をもっている b:朱文の印の書作品での役割を理解している c:裏打ちの技法を養う d:軸装仕立ての技法を養う	同上
	仮名の書	・仮名を学ぼう 「高野切第一種」 「関戸本古今和歌集」 「元永本古今和歌集」 「継　色　紙」	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○		a:篆刻について興味・関心をもっている b:朱文の印の書作品での役割を理解している c:裏打ちの技法を養う d:	同上

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。